



アトリエで作品を制作中の利根山画伯

感動を全身で表現し、あふれる情熱で作品に魂を吹き込んだ「太陽の画家」利根山光人(とねやまこうじん)。残された作品は、生命力がみなぎり、躍動感にあふれています。

利根山画伯が実際にアトリエとして使っていた美術館で、多彩な作品が皆さんをお待ちしています。どうぞ鑑賞ください。

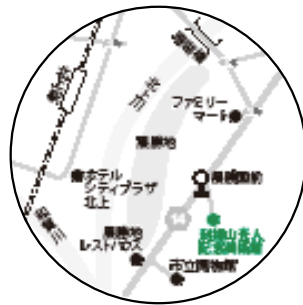


平成23年度企画展
利根山光人の世界
卓越したデッサン力に支えられた多彩な表現

▼会 期
4月15日(金)～5月30日(月)
午前10時～午後4時(入館は午後3時30分まで)

▼会 場
利根山光人記念美術館
北上市立花15-153-2 ☎65-1808

▼入館料
一般300円/高校生120円/小・中学生60円



利根山光人略歴

(大正10年—平成6年)

- 昭和18年 早稲田大学卒業
- 47年 アギラ・アステカ勲章(メキシコ)受章
- 48年 紺綬褒章受章
- 56年 北上駅壁画「日輪」制作
- 60年 第17回日本芸術大賞受賞



「直ってよかった！」修理が終わったおもちゃと一緒に

子どもの笑顔が一番！

おもちゃの修理屋さん

「おもちゃの修理屋さん」は、壊れたおもちゃを無料で修理するボランティア団体です。

最近、おもちゃの仕組みやつくりも高度化し、修理に時間がかかることもあり。それでも「ものを大切にすることを伝えていきたい」という気持ちを胸に、会員は修理に携わっています。

また、壊れたおもちゃを簡単に捨てず、使える部分を再利用すればごみは減り、環境保全にもつながります。

活動は原則、毎月第1・3土曜日 午後1時～3時30分(12月～翌年3

月は3時まで)。おもちゃを持って直接生涯学習センターへおいでください。

修理するものはおもちゃに限りません。精密機器を使用しているものは修理できかねますのでご了承ください。

〈活動ボランティア募集〉

一緒におもちゃの修理をしてくれる人を探しています。年齢、性別は問いません。特に機械や電気に詳しい人を募集しています。興味のある人は、どうぞ活動日に直接おいでください。

北上市民大学についてのお知らせ

北上市民大学は、毎年5月第2金曜日発行の広報紙で受講生募集についてお知らせしていましたが、今年は地震の影響でまだ年間スケジュールが定まっておらず、次号の広報紙に掲載することができません。

詳細が決まり次第皆さんにお知らせしますので、いましばらくお待ちください。

生涯学習センター休館日

5月18日(水) 毎月第3水曜日は休館日です。

第14回 光の会美術展

- とき 5月2日(月)～5日(木)
午前10時～午後5時
- ところ 市民交流プラザ
(ツインモールプラザ西館2階)
- 入場料 無料



出展作品 八重樫千代子作「残雪」

春の恒例となった光の会の美術展が、今年も開催されます。光の会は、利根山光人記念美術館の絵画教室を受講した人たちが、終了後も仲間と励まし合いながら絵を続けていこうと結成された絵画グループです。会の名称は、太陽の画家と呼ばれた利根山光人画伯の名前の一文字をとって付けられました。会員それぞれが、光あふれる作品が描けるようにという思いも込められています。

平成10年の結成当時からの会員もおり、現在130人ほどで活動しています。会員の中には県の芸術祭に受賞、入選するなど高い評価を得ている人もおり、今では市の主要な展覧会に育ちました。年に一度の同会のイベントとして開催してきた美術展も今回で14回目。会場には、静物画や風景画など66点もの力作が所狭しと並びます。その名の通り、春の光いっぱい美術展にぜひ足をお運びください。

●問い合わせ：芸術文化係
☎ 64-0500



この日は、みつばち第一・第二クラブ合わせて約100人の児童が参加。皆が絵本に注目し、森さんの静かな語り口が心地よく響き渡ります



大型絵本は指導員にページめくりを手伝ってもらいます。通常の絵本の場合、少人数のグループで読み聞かせを行います

この日読んだのは大型絵本「ひさの星」。読み聞かせが始まると、今までざわついていた児童がシーンと静まり返ります。皆、絵本の世界に引き込まれたようです。「子どもは絵本が大好き。同クラブでは絵本を読んでもらう機会が少



「読み聞かせ活動では、私自身が子どもから元気ももらっている」と語る森さん

ここでは子どもと本に関わっている市内の団体・機関を紹介します。今回は、絵本の読み聞かせ活動を月に2回行っている北上学童保育所みつばちクラブ(黒東小学区)の、3月8日に行われた取り組みです。同クラブの読み聞かせを行うのは、同地区の森良子さん。「子どもたちに絵本の素晴らしい世界を伝え、ほっとできる時間を作ってあげたい」と、自らボランティアで活動を行っています。

児童からは「悲しい話だったがおもしろかった」「自分で読む本も好きだが、読んでもらうのも好き」との声が聞かれました。森さんの思いが児童の心に確実に響いています。絵本には未来を担う子どもたちの心と言葉を育む力があります。どうぞ皆さんも子どもたちへたくさんの絵本を読んであげてください。

生涯学習センター

絵本の素晴らしさを子どもたちへ

「みつばちクラブ」の読み聞かせ